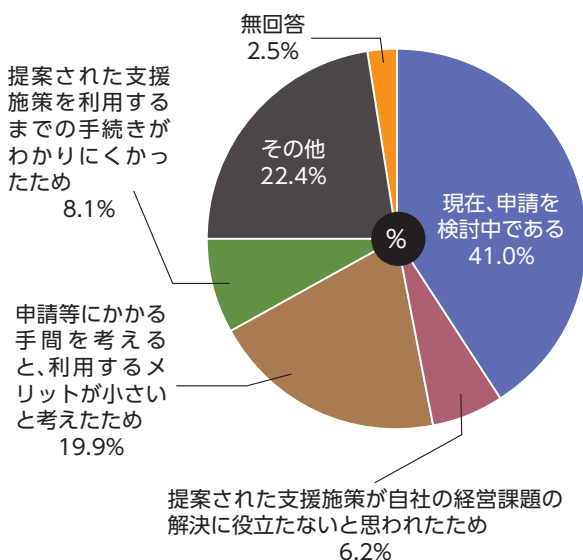


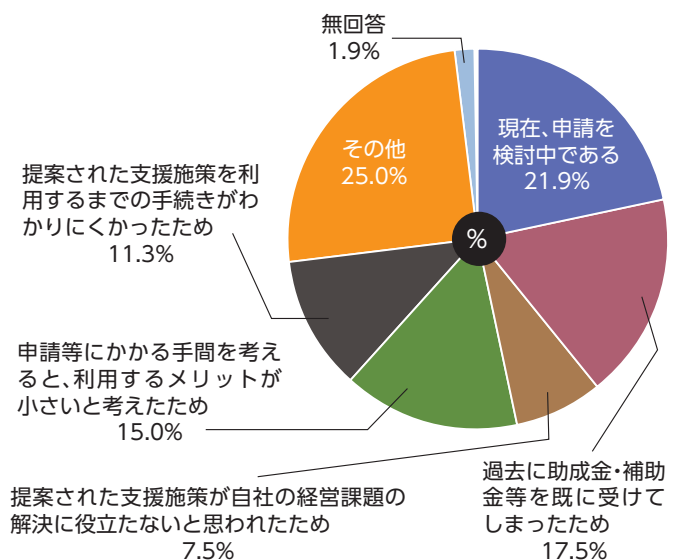
具体的な施策内容について見ると、今年度と過年度で大きな違いは見られなかったため、合算で確認した結果、上位の利用施策状況では、「販路拡大助成事業 (29.9%)」、「小規模事業者持続化補助金 (21.0%)」、「アシストコース (20.8%)」と続いており、直接的に資金を支援する施策の利用が多く、次いで専門家の派遣制度が利用されていることがわかる。

また、項目別の利用施策状況では、「アシストコース」等をはじめとした「本事業で一連の支援として実施する施策の利用 (53.6%)」が最も多く、それ以外では、「補助金・助成金・制度融資等による資金的な支援 (34.4%)」や、「専門家による具体的な支援 (19.6%)」などが活用されていることも確認できた。

施策を利用しなかった理由 (今年度) (n=161)



施策を利用しなかった理由 (過年度) (n=160)



一方で、施策を利用しなかった経営者にも尋ねてみると、利用しなかった理由としては、今年度、過年度ともに「現在、申請を検討中である (41.0%)」が最も多い。また、過年度では「過去に助成金・補助金等を既に受けてしまったため (17.5%)」が次いで多くなっている。継続して利用できる施策であれば利用の促進も期待できることもうかがえる。

一方で、「その他 (今年度22.4%) (過年度25.0%)」の中身を見ると、「提案されなかった」というコメントも散見されるため、しっかりと次の施策へとつなげるための施策の紹介・フォローアップは、依然として課題となっていることもわかった。